

それは、地球からの贈りもの。レックス。

■製作・監督
角川春樹

■原作
畑 正憲
(「恐竜物語」角川文庫版)

■脚本
丸山昇一
ビル・バーナム

■恐竜製作
カルロ・ランバルディ

■キャスト
渡瀬恒彦
安達祐実
REX
大竹しのぶ

■製作/「REX」製作委員会
■記給/松竹株式会社

REX

恐竜物語

93・夏、日本中にREX旋風が巻き起る!

解説

もしも現代に恐竜が現れたら?それも可愛い赤ちゃん恐竜だったら?そしてその恐竜と友達になれたら?そんな夢を叶えてくれるのが「REX・恐竜物語」である。

水に包まれた洞窟の中で発見された卵。古生物学者の立野博士は現代に恐竜を蘇らせようと考え、離婚した妻で発生学の第一人者・直美に協力を依頼し、恐竜の孵化に挑戦する。一方、自閉症気味の娘・千恵は父に構ってもらえず、その上再会した母はイメージと全然違うヘンな女の人だったのが面白い。名誉欲の強い助手の大助やTV局同士のスクープ合戦など、様々な思惑が入り交じる中、ついに卵が割れ始める。息を呑む一同。中から飛び出したのは可愛い恐竜の赤ちゃんだった。千恵は早速恐竜をレックスと名付け、すっかり母親気分である。一方レックスも不思議な能力を持つ千恵の言うことしか聞かない。友達のない千恵はレックスの面倒を見ていくうちに、少しずつ変化を見せていく。そして立野と直美の関係にも微妙な変化が起こっていく。しかし、平穏な日々の陰で、大きな陰謀が蠢いていることを知る者はなかった……。

最も期待されるのは赤ちゃん恐竜・レックスだ。撮影のため、500万ドルの巨費を投じ、生物の持つ暖かさリアルな動きを備えたロボット・レックスが製作された。ゴジラやティラノサウルスみたいに凶暴さは全くなく、誰にでも愛される可愛いキャラクターの活躍に大人から子供までその魅力の虜になることは間違いない。このレックスと千恵の心の触れ合いがやがて美しい奇跡を引き起こし、観客を素晴らしい感動の世界へと誘うのだ。

原作は「ムツゴロウさん」でお馴染みの畑正憲。自ら動物と共に生活し、動物学者でもある畑氏ならではのリアルな設定と、根底に流れる動物(人間も含めた)への愛情が本作品を生み出した。恐竜レックスの造形を担当するのは、「E.T.」の生みの親、カルロ・ランバルディ。そしてシャープな感性で原作のテーマを脚本化するのは丸山昇一。さらに監督は、原作の雑誌連載から8年間構想を温めていた、製作者でもある角川春樹。超大作「天と地と」に続(5作目のメガホンを取り、総製作費20億円のSFXファンタジーに初挑戦。

立野博士を演じるのは角川映画でお馴染みの名優・渡瀬恒彦。「天と地と」でも見せた重厚な演技は記憶に新しい。その離婚した妻・直美役には大竹しのぶ。こちらも「死んでもいい」「復活の朝」等で新境地を開拓した実力派。角川映画は「麻雀放浪記」以来の出演。千恵役には「具が大きい」のCMが評判の安達祐実が映画初出演。フレッシュな演技が期待される。

恐竜と少女の心の触れ合いを描いたSFXファンタジー映画「REX・恐竜物語」は、夏休みに親子揃って楽しめる素敵なファミリー映画である。世界的な恐竜ブーム、自然保護ブームの中、93年は日本中に「REX」旋風が吹き荒れる。文字通り、90年代の「E.T.」と呼ぶにふさわしい作品と言える。

企画意図・角川春樹

1億年もの遥かな太古、地上は巨大な恐竜たちが支配していた。巨体を揺るがし、地響きを立てて地上を闊歩する恐竜たち。その咆哮は我々の魂の奥底を揺さぶり、前世の限りないロマンの世界へと誘う。そして失われた世界への憧憬は、人々の心の中に永遠に生き続けている。

畑正憲氏原作の「恐竜物語〜奇蹟のラフティ」は、雑誌「野生時代」連載当初から映像化を温めていた作品である。製作準備を進めていた3年前、私の脳裏をよぎったのは「今後、女性映画とファミリー映画の時代が来る」という強烈な予感であった。そして現在、目まぐるしい変化を遂げる社会情勢の中、予感確信となった。

従来、映像の世界において本格的に恐竜を扱った映画は極めて稀であった。特に日本では「ゴジラ」に代表される怪獣と混同され、怪獣映画の大ヒットの傍ら、純然たる恐竜はB級特撮映画の彩りという立場を余儀なくされているのが現状である。

空想の産物たるモンスター・怪獣と、現実の生物たる恐竜とは厳然たる違いがある。恐竜は人類と全く別の存在ではない。かつて同じ地球上に存在していた「同胞」とも呼ぶべき存在である。人類と異なるその姿によって「巨大かつ凶暴」といった「悪」のイメージで見られることは人類の傲慢に外ならない。

本作品の独自性は、恐竜こそ人類のパートナーであり、共存によって未来への希望を実現できる存在としてとらえた点にある。現代に蘇った赤ちゃん恐竜と少女の触れ合いを軸に、少女の成長、離婚した両親の愛憎、恐竜を利用しようとする悪企み等、恐竜を巡って繰り広げられる悲喜劇を少女の視点で描き、虹色のファンタジーの糸を紡ぎ出していくのである。

かつて我々は「未知との遭遇」「E.T.」といった映画によって、従来「悪」とみなされていた宇宙人が、地球人にとって共存できる重要なパートナーであることを確認し、「宇宙との調和」を実現した。同様に、本作品「REX・恐竜物語」は、地球の象徴たる恐竜と少女の心の触れ合いを通じて、「地球との調和」を具現化することによって、次世代へのメッセージを遺していくことになる。

物質文明に裏打ちされた虚飾の時代はその幕を閉じた。第二幕は生きる物すべての想いを込めた精神の時代である。その幕明けを飾るべく、「REX」は21世紀への希望のメッセージを携え、今、誕生の時を待っている。その時こそ、すべての人々が心に抱く、「愛」「優しさ」といった心の琴線をかき鳴らし、感動のハーモニーを奏でることができると確信するものである。

REX

恐竜物語

7月3日(土)より大公開!

特別鑑賞券(一般¥1400/学生¥1200)発売中

地下鉄東銀座駅下車・松竹セントラル1横

松竹セントラル2

03(3541)1786